

## 1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

\*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）  
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率＝予想値÷実績

| 令和6年5月末                         | 令和6年8月末                       | 令和6年11月見通し                     | 令和7年2月見通し                       |
|---------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|
| +65千トン<br>〔2114千トン〕<br>(103.2%) | -42千トン<br>〔2072千トン〕<br>(98.0) | -22千トン<br>〔2050千トン〕<br>(98.9%) | +30千トン<br>〔2080千トン〕<br>(101.5%) |
| 2062千トン<br>(97.5)               | 2084千トン<br>(100.5)            | *                              | *                               |

## 2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

| 令和6年6月末  | 令和6年9月末  | 令和6年12月見通し   | 令和7年3月見通し   |
|--|--|--|---|
| 鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は140,700円。前期比+1,600円。建築需要は前年よりも若干減の水準で低調に推移。資材高騰や人手不足の影響で中小物件は手控えられた。大型案件も出件の端境期で需要の盛り上がりが見えなかった。価格転嫁はなかなか進んでいない。 | 鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は139,700円。前期比+1,000円。仕入を抑えているため在庫は減少傾向だが、夏場の猛暑や夏季休暇により需要環境は極めて低調、秋口も改善の兆しはほとんどなかった。某電炉メーカーの値下げ発表により市況は弱含みだ。 | 建築需要は一向に盛り上がり実需不振が続いている。年末に向けての商いも、特に店売り販売においては落ち着きをみせ、荷動き、引合いが更に低調になっている。在庫は例年より低位で推移しており、市況においても極端な安値は見受けられないものの、年内は弱基調で下値を探る展開が続くようである。 | 年明けも年末と変わらず商いは低調に推移するだろう。年々、鉄鋼二次流通業者の取扱量が少しずつ減少傾向。各社、発注を抑えて在庫調整していることから市中在庫は適正を保つと思われる。但し需要低迷が続くと予想されることから、在庫の過剰感は続くだろう。量を追わずに収益重視の販売姿勢に徹していくと思われる。 |

## 3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

11月仕入量は144,219トン前月比-6.2%、前年同月比-12.3%、販売量は152,711トン前月比+5.2%、前年同月比+7.1%。前月比において仕入量、販売量ともに減少、前年同月比において仕入量は著減、販売量は減少となりました。在庫量は198,748トン前月比-4.1%、前年同月比-4.5%、在庫量は前月比、前年同月比ともに減少しました。在庫率は130.1ポイントと上昇しました。

11月販売量は前月比で減少しておりますが、稼働日減に伴う減少で日々の荷動きはさほど変わっていない状況です。秋需という盛り上がりは10月同様に感じられませんでした。下げ圧力が徐々に強くなり市況は日を追う毎に弱含みでありますが、現状何とか持ち堪えています。

## 4. 大阪

10月～12月は、H形鋼・一般形鋼ともに例年通り7月～9月と比べると秋の需要期で出荷は増加。ただし、前年に比べると建築需要の低迷から減少している。自動車関係も認証不正問題による減産から徐々に回復しているが、人手不足等の問題もあって挽回生産ができず、コロナ前の水準と同レベルに戻るには、まだ至っていない。来年1月～3月の需要見通しについても、建築・土木関係は現状と大きく変わらず、低調のまま推移しそう。建産機等の需要感も回復の話は聞こえてこず全体的に低位横ばいが予想される。自動車関係も年明け以降は荷動きが良くなる事を望むが、製造現場の人手不足は深刻で、今以上に生産ペースを上げることは難しくなっている事が懸念される。